



Toi Story 5



●夏休み中も 研修お世話になりました。

指導案作成・検討、環境整備、紀要作成、ナビの作成などへのご協力ありがとうございました。
まだ研修が続きますが、ぼちぼち楽しみながら、当日までがんばっていただけたらと思います。
また、ご協力よろしくお願いいたします。

各学年の研究授業のご紹介

指導案の作成・検討、お世話になりました。

今回、全体で指導案の共有ができていないので、各学年の指導案の推しポイントをご紹介します。

今日お渡しする指導案をそれぞれ見ていただき、お気づきの点があれば授業者の先生にお伝えいただけますよう
よろしくお願いいたします。

○3年生

単元：沖洲のねぎづくり

本時：みんなで考え話し合う（10／11）

判断を求める問い：沖洲のねぎづくりで、1番欠かせないポイントはどれだろう。



- たくさんのGTから学ぶことにより、より教材や地域への愛着を感じられる！
- 予想の段階と同じ判断の問いをして、子どもの意識がつながるように単元構想をしている！
- 本時では、自由起立での話し合いの場を設けることで、自分の立場の明確化や意見の相対化をし、考えを多角的に深める！
- 本時の学習の終盤に、次時へつながる資料を提示し、子どもの問いをつなげている！



三層	六段階
Ⅰ 問題 把握	①問題をつかむ
	②予想をたてる
	③調べ方をきめる (見通しをもつ) (学習計画をたてる)
Ⅱ 意味 把握	④調べたしかめる (ひとりやグループで調べたしかめる)
	⑤みんなで考え話し合う (考え話し合ってまとめる)
Ⅲ 発展	⑥ひろげ深める

○4年生

単元：地震にそなえるまちづくり

本時：ひろげ深める（11／11）

判断を求める問い：地震や津波から命を守るために自分たちに何ができるのだろう。



- たくさんのGTから学ぶことにより、より教材への認識を深める！
- 単元の最後に社会への関わり方の判断をし、自分
- 取り組みごとに「安心か」判断を繰り返すことで、単元を通して意識をつなげ、認識を深める！
- 本時の話し合いの途中でGTからの話をはさみ、さらに問いを追究できるようにしている！



三層	六段階
Ⅰ 問題 把握	①問題をつかむ
	②予想をたてる
	③調べ方をきめる (見通しをもつ) (学習計画をたてる)
Ⅱ 意味 把握	④調べたしかめる (ひとりやグループで調べたしかめる)
	⑤みんなで考え話し合う (考え話し合ってまとめる)
Ⅲ 発展	⑥ひろげ深める

○5年生

単元：未来につなぐ工業生産

本時：みんなで考え話し合う（6／11）

判断を求める問い：海外生産で得をしているのは、日本と現地のどちらだろうか。



- 5年生の産業学習での地域教材の開発！
地域教材による学習への意欲の高まりと教材への理解の深まりが期待できる！
- 調べたしかめる段階での判断は沖洲で初！がんばってみます！
- 立場を日本と現地から選ぶことで、二項対立となり、
判断しやすく話し合いや考えを深める！
- 本時の学習の終盤に、次時へつながる資料を提示し、子どもの問いをつなげている！



三層	六段階
Ⅰ 問題 把握	①問題をつかむ
	②予想をたてる
	③調べ方をきめる (見通しをもつ) (学習計画をたてる)
Ⅱ 意味 把握	④調べたしかめる (ひとりやグループで調べたしかめる)
	⑤みんなで考え話し合う (考え話し合ってまとめる)
Ⅲ 発展	⑥ひろげ深める

○6年生

単元：近代国家を目ざして

本時：ひろげ深める（11／12）

判断を求める問い：外国に認められることに大きくつながったことは何か。



- 予想の段階で判断を入れることで、見通しをもって調べたしかめる段階を展開できる！
- 予想の段階と同じ判断の問いをして、子どもの意識がつながるように単元構想をしている！
- 自分の考えを帯グラフで表現する活動を単元の中で繰り返し、
単元を通して意識がつながるようにしている！
- 比較や関連付けができるような問いや思考ツールを使うことで、社会的事象の考え方を
働かせながら認識を深められるようにしている！



三層	六段階
Ⅰ 問題 把握	①問題をつかむ
	②予想をたてる
	③調べ方をきめる (見通しをもつ) (学習計画をたてる)
Ⅱ 意味 把握	④調べたしかめる (ひとりやグループで調べたしかめる)
	⑤みんなで考え話し合う (考え話し合ってまとめる)
Ⅲ 発展	⑥ひろげ深める

よくあるご質問

Q & A

A, B, C の判断ってなに？？何がどうちがうの？？

目的や設定する場面が違います。

Aは社会への関わり方を考える判断。「自分たちにできること」を考えるような判断です。

Bは深く分かることにつながる判断。判断することで、社会の特色や意味に迫ります。

Cは見通しをもつことにつながる判断。今後の学習につながる予想を含む判断です。

Aの判断は、文科省が示す選択・判断と同義としているので、できる単元が限られます。

Bは多くの場面で使えます。Cは問題把握の一層目で使うことが多いです。

ややこしいとは思いますが、迷ったときは、いっしょに考えます！

～先生方へお願い～

- 本時の授業や単元に関わりそうな資料等をもしお持ちでしたら、ぜひ授業者の先生にお伝えください！
ポスターや実物、新聞等、あると助かります！
- 普段の授業の様子で構いませんので、板書写真や授業風景の写真、振り返りの記述があれば、またご提供ください。「こんなふうにしてみた」「こうするとうまくいった」「ここ、もうちょっとこうすればよかった」等、感想含めて大歓迎です！よろしくお願いします。

お願いばかりで恐縮ですが、またどうぞよろしくお願いいたします。